へ 5
6593

今人五百題秋之部目録

時候之部

名月 一
月見 二
二日月 四
童田雅 六
初秋 六
星合 八
天漢 九
于蘭盆 十
草市 十一
名月雨 二
月 三
十六夜 五
寄月 六
冬の秋 七
顔条 九
切子 十
迎火 十
玉棚 十一
名月餅 二
初月夜 四
後の月 五
寄月 六
七夕 八
撓菓 九
亨稚蘭 十
送火 十一
盂蘭盆 十一

N5
6593
山本彰氏
1991.5
91-1421

墓参 十二
西瓜 十三
秋風 十四
霧 十六
速稲 十七
晩稲 十七
初曳 十七
引板 十九
蕎麦 二十
沙魚 廿一
新米 廿一
新酒 廿二
生魂玉 十二
花火 十三
残暑 十三
初嵐 十五
蜻蛉 十六
蕎麦 十七
后彼岸 十七
放生會 十九
棄山子 十九
初鮭 二十
弁当 廿一
新米 廿一
秋日和 廿二
盆の月 十二
初樸 十四
蕎麦 十五
稲妻 十六
野分 十七
田刈 十七
初汐 十八
帝迂宮 十九
蕎麦水 二十
鮭 二十
河鹿 廿一
搗衣 廿一
冷 廿二
秋寒 廿三
秋蕎 廿四
秋水 廿五
秋雨 廿五

植物之部

桐一葉 廿六
木槿 廿七
蔓珠沙花 廿八
秋海棠 廿九
蕎麦花 三十
鶏 三十一
桔梗 三十二
鬼灯 三十四
稲 三十五
柳ちる 廿六
葛花 廿七
男郎花 廿八
新木香 廿九
稲花 三十
蘭 三十一
芒 三十二
鶏頭 三十四
芦の花 三十五
女郎花 廿六
鼠尾草 廿八
新蕎 廿八
萩 三十
瓜の花 三十一
芭蕉 三十一
紫苑 三十二
鳳仙花 三十四
きく 三十五
葡萄 廿四
露草 廿五
植物之部
若蕎 廿五
蕎麦 廿六
蕎麦花 廿八
芙蓉 廿九
萩 三十
糸瓜 三十一
花蓼 三十一
野菊 三十四
蓼花 三十四
尾花 三十六

うらゝれ 三六　爲爪 三六　蔦 三六　藤袴 三七
ぬゝ志 三七　芋 三七　くるかゝや 三七　木犀 三七
木の実 三七　稗のゝ 三七　葦 三八　葦花 三八
栗 三八　爨柿 三八　紅葉 三八　木綿刈 三八　茶摘 三九
草紅葉 三九

生類之部

虫 四十　秋蟬 四十　秋蜩 四十一　秋蚕 四十一
秋蚊 四十一　秋蝿 四十一　籠七 四十一　蜻蛉 四十一
蚯蚓 四十二　いゝゝ 四十二　蜻蛉 四十二　蜻蛉 四十三
蚤 四十三　稲蛍 四十三　蜩 四十三　蜘蛛 四十四
虻 四十四　蜻 四十五　きりぎりす 四十五　蟋蟀 四十五
蚊 四十五　蚊 四十五　蚊乙 四十六　蚊帳 四十六
鹿笛 四十六　鹿 四十六　九月冬 四十七　行秋 四十七
暮秋 四十七　朗詠 四十八

都合百七十五紙

今人五部歌冬之部類聚

降物之部

初雪 一　雪 二　雪吹 四　去年紀 四
初時雨 四　時雨 五　霰 六　うもれ木 六
千鳥 七　冬鳥 八　冬鳥 八　氷柱 八

時候之部

神無月 九　小春 九　春月 九　師走 十
初冬 十　冬至 十　神送 十　神留守 十
神迎 十一　夷講 十一　子授仏 十一　吹草祭 十一
神乱 十一　黒神乱 十一　十夜 十二　達磨忌 十二
市金講 十三　大黒講 十三　市取載 十三　市俳名 十三

俳初 十四　市金俳 十四　大師講 十四

植物之部

霞葉 十四　木の葉 十五　冬至 十五　風 十六
柏柳 十六　紅葉 十六　時雨 十七　冬の葉 十七
山茶花 十八　ハツ手 十八　冬梅 十八　冬桜 十九
冬牡丹 十九　水仙 十九　柘榴花 二十　柘榴 二十
冬の葵 二十　冬の葉 廿一　石蕗花 廿一　柘蓮 廿一
柘芦 廿一　冬柘 廿一　草柏 廿一　冬山 廿一
柘野 廿二　柘望 廿二　大根引 廿二　ごぼう刈 廿二
千葉 廿二　葱 廿四　麦蒔 廿四

動物之部

鶏鶏 廿四　子鳥 廿五　水鳥 廿六　鴨 廿六

[illegible]	廿六	[illegible]	廿七	本兎	廿七
[illegible]	廿八	[illegible]	廿八	暖[illegible]	廿八
炭[illegible]引	廿九	遠[illegible]待	廿九	錦[illegible]	廿九
罪[illegible]	廿九	[illegible]成[illegible]	三十	切[illegible]	三十
鮭[illegible]	三十	乾鮭	三十	茶[illegible]	三十一

時節之部

汁[illegible]	三十一	冬籠	三十一	食	三十一
[illegible]子	三十三	頭巾	三十三	豆[illegible]	三十三
埋火	三十四	火[illegible]	三十四	火[illegible]	三十三
冬[illegible]	三十五	炉[illegible]	三十五	湯[illegible]	三十五
[illegible]置	三十六	[illegible]居	三十六	口切	三十五
[illegible]車	三十七	酒	三十七	凍	三十六
				納豆	三十七
				搗	三十八

炭竈	三十八	炭	三十八		
寒入	三十九	[illegible]の内	三十九		
臘八	四十	腑	四十		
冬夜	四十一	冬[illegible]	四十一		
[illegible]	四十二	[illegible]	四十二		
厄[illegible]	四十三	年の市	四十三		
行年	四十四	罔見	四十四		
掛[illegible]	四十四	大三十日	四十五		
年内立春	四十六	冬朗[illegible]	四十六		
		冬月	三十九		
		[illegible]離	四十		
		腑	四十		
		冬日	四十		
		[illegible]	四十一		
		[illegible]	四十二		
		[illegible]	四十三		
		年末	四十三		
		[illegible]待	四十四		
		[illegible]	四十四		
		除夜	四十五		
		年暮	四十五		

[illegible]

名月

今人五百題叢句集

秋之部

八雲　東溟　輯
渉壁　千輪　校

名月の霧を見るとなるかな　由誓
明るゝや一見果まき　加上　汐鳴
名月や古郷の路ての路　蛎山
明るゝや義の丹も咲ちらい　素樸
名月の入り赤くなりえんけり　史千
明るゝや猫て文ある川原也　甫旧
名月や原のうけき人の上　双烏
明るゝや猫て主人の上　鳳朗

名月や　あるきもやらぬ　月の前　　大梅

明るかや　ほのぼのと　新月の　夕　　得蕉

名月や　西へ戻りて　月の酒　　卓也

明るかや　極楽とても　松のうち　　三岳

名月や　祝ふて　蔦の　霧　　万頃

明るかや　あるふる　陽の　雲　　波同

名月や　まつ　松山の　こえて　出る　　其流

明るかや　照らつ　照らつ　橋　如　　梅室

名月や　男ひやらく　鶯の　峯　　千輪

きつつもとよもぬ　月　　風翁

きらつかやうやう　傳きりけふの　月　　未木

きらつくとそれ　きき　峯　きりふの　月　　眉山

照らつ　のきつ　にひきて　ふの　月　　若非

ちんまつ　あるき　ひて　ふの　月　　風底

傳外　夫　ゆ　れ　けふの　月　　砺山

夢きつ　とくる　ゆ　ふの　月　　斗南

とのひも　ゆ　ふ　ふの　月　　梅室

月あくる　松の　葉　ゆ　ふの　月　　千輪

峯　たけ　さ　ま　かよ　て　西の　月　　蒼虬

蓑　を　う　ま　ち　は　ま　月　　遅流

ありく　と　月の　峯　ゆ　西の　井　　薫山

名月雨

名月の二夜つきしまれなる事
うのまくらひとむかしを月の秋　源芝
蝕されて紫うすもちなる中月の人　丁知
青のうちもなりくいいくさふの月　蔦孤
つまくもまちもちも月の月　大梅
笑ふうまてまくしに篇の月の月
入会くくもの月ふふはきの月
あまをまくあるものもの月の月　蒼孔
輝えよ者をもたむ月見事　一具
春を行の家は輝てふ月見　水弁
年中木の下雫よ生て月見事　渓角
風朗　桐堂
蕎麦

月見

秋月

月

清くくもちも秋の月　卓池
あくあるふ一ちよ秋の月　柔木
形は方ふくは中秋の月　蕉山
ちくは水年移れる山中秋の月　春山
伊勢神宮くも秋の月　抱儀
篇くまくふ又ちもふふ清のくく
くくれくも輝よ筆中松の月　沙路
ちくくくは風ふくくの月の松　山外
清くくもくくくくくの月の庵　源芝
かくまくものはくくくの中　鼎左
護物

蒼苔
永木
冷那
眉岳
芝石
芳英
岱雲
雍年
而后
三江
佛兒
一具

年風
梅室
由雪
宜柴
吳豊
魏亞
悠〻
蒿居
東隈
卓舎
千鶴

初月夜

初月歌 藤原為家

初月歌 藤原為家

初月や明るき方は松の葉の
井の葉を洩て月ぞ見えける

陽朗 稲州 溪翁 東溟

三日月

三日月や夕べを知る稲の穂
三日月をしるべ頼りの海士の舟
三日月や新堀に植し置水仙
吹もれし夕べ花のうへの三日月
三日月や拍子ようせる縄手にて
三日月や門先掃て人も拍子
押かくる雲はうすし三日月

一具 月成 昌左 寿子 而石 一角 卓池

待宵

待宵に出てみるる月の明るかな
まつ宵や翌を楽しき夜もふけ
待宵のあるべき業あり月の秋
まつ宵や山をたゝれて海の月
待宵や地いたのみぐき高上り
時雨ぐるゝ彩のうち待し月の出

遠淵 逢流 風朔 花明 由誓 千鶴

十六夜

いさよひや竹とり物語雲の言中
いさよひや座敷もうを月と雲
いさよひて志たゝく水の音
いさよふて月さびやかな道の流れ

梅言 風朔 蓼孔 卓池

后乃月

ちりぬるかぜにいさよふ月やまぶきの上　一具
いさよひも川ぞいさんの月あはれ　千輪

雲をもるかぜにもいさよう後の月　大梅
おもかげの赤木枯れて后のこゝ　貸年
雲をくぐりて月見ぬ月のつゞ　蓑風
刈株の稲葉戦ぐ秋の后の月　溪舟
いなびかり深さをふかや后のこゝ　蓑軒
ぬかるれば雲の紅葉や后のこゝ　梅宮
衍子寒さもかゝる后の月　一恨
紅葉ばゝ山もちらす月の月　由誓
云雲よりぬる雲や后のこゝ　千鶴

龍田姫文月葉月

人のゝこゝ人の岩ゝ野やたつさ姫　露泉
明星も光りそへゝ蕃田姫　惟茅

文月や一雲森のいろのうつり　梅宮
ゆくすゑやあるうつれいろつゝき　蓑了
うつりそめもみぢき赤いろき文月　采月
七月の神火ぐまき本のうつり　葉蕉

雲ちりぬ雲さへ雲のうつまきぬ　大笑
蕉をもゝ月も蕉月の紅のうち　阜池
八月や一生葉ちるこのうち　文葉

八月中　新穂　明手　稲の花　松隈

芋月の朝日　はつうつくしう　戸叢

四方をひかせて　御手初る九月哉　素英

新月のゆつへすてく九月哉　去来

古もあくもなし九月の世の中　由誓

手枕しこゆるにかの入九月哉　千梢

初秋の水手枕つくろうか　沙路

さつ秋の旅打さる中恒嶺　琴水

初秋や　旅ひるすねし　仲の夜　壺巵

さつ秋や　暁よせて　ひる水の　蓬居

長月　初秋

さつ秋や　海手見る汐かち　丁知

初あき中　新て素のつく　橘の反　涼芝

さつ秋や　海くれ蕎の　ひる　蓬乱

立秋

秋の月をさやかに　秋ハ　さて　風明

立ちよう　秋手　うつり　物の色　地僕

秋立や　白ちゆけたる　仲養子　眉山

蟬立や　あのうつ　ひる　世の　秋来　黄山

秋立や　稚し　来の　大つうて　寺風

一夜さの　ちて　秋立　稚川　氣　壮鶯

暁　井を　秋立　風の　ちうり　一育

紫　ハよくも　天く　秋立　ちうり　寺　由誓

秋の夕

滝殿のつらつら秋之川殺末寺　拾遺　蓬宇
秋吉野山清らまさるく川掃除　大橋
秋くれの夜明ようきこえの川

屋もけハ吉もまさるる久法の秋　林曹
うら野の秋水屋へうら荒う郷　湖葉
花薄ゝ名ハ去ほれて久きの秋　碌山
明石のハ天まつ月ハ久けき秋　嬉見
ふるさ波ゝの沖ゝ久秋　東則
秋歌をめつらしう秋の秋　知風
明手ゝれゝ秋の山奥ゝ久きの秋　千輪

七夕

七夕やかきうつ秋の時ゝ　多よめ
たまゝゝやを後ふ梅のうゝ上　沙時
七夕や歌文し彩子筆の青　節之
たまゝゝや手前の昔もあるのき　潮山
七夕や用たゝしもるる関の人　湖葉
たまゝゝの竹ゝ中ゝ広高　井外女
七夕の歌をしゝ中ゝ広うつし　寿化
たまゝゝや二世百年を素ゝ　渓翁
七夕やゝ去比ゝ久めぬ庵の家　一具
たまゝゝやゝ先手ゝ歌の函　風朔

きゝれハ梶もちゝ上ゝ　梅童

星の井　卓池

貧小袖　丁志

一夜ゆめ袖ゆ計り別れ哀
ゆきたけのあつも生ける小袖
哀はかうの生を出る小袖

波田
南溪
蓬原
山谷
由碧
碧孔

抱儀
素嶺
ちから

願糸　双鳥

糸ゆけく計り別れ哀
糸新も新しの糸や供しもの
赤松新子徒金ゆ星の糸

小義
逸淵

梶葉　哀非

梶の葉ね水葉のとれ書つり
のちとれ別れさ水書ゆ書ゆ
梶一葉捧て出る和義中き

警水
著孔

天河　栃宣

その川とゆ閑ゆ時彩
黄の天あて捧ゆ川
黄ゆ折ゆ出ゆ天の河

山外
丸義

燈籠

嘆一歌 雲とても高砂の川
高きとふ 四とふ水やその川 大橋 波文
明きとむ雲の高やその河 美水 鼎左
雲とても多川 往来やその河 紀久 千鶴
嘆つあし 四の雲とふ 稿やその河
高籠 高籠 高やの影 その川

籠中 籠中 籠中 元の する 弁の奥 蒼巳
赤の 高れ 四 籠 籠 よ 行 是 逸淵
捨てみ 高 高 籠 籠 年 粗文
年 高 の 四 高 高 高 高 呂叟
二 二 歌 て 籠 高 籠 高 高 紙白

切籠

高とふ元

河の岸町の世雲とふ元 史千
ちとあ とと 歌 籠 得芸
領地を 行 高 つ切 籠 得取
籠 籠 を さ 出 元 高 つ ち の 井戸 風朗
人 影 と 高 籠 ぶ と 元 武 千鶴

高 ち 高 と 元 武 千
雲 の 口 と 元 歌 の 切 高 ふ 抱儀
さ ら と 切 高 千 風 中 弁 松 子 山外
寝 て 切 元 の 高 雲 と 元 籠 籠 松什
過 る 河 ち 高 と く 高 籠 籠 花雪

于蘭盆

盂蘭盆用意婦の森前もそうせそう
月や竹や人や蔦なき盆の角
見事のまてはすしたる盆供哉　卓池

せうろう

掛行燈扇いれたまふ備う彩
せうたいや海と陸との列れる　遠浦
提燈や一所も休む松の根　文鯉

迎火

迎火や稲風さくく人通り　杜鵑
迎火や生つて森歩る神門の犬　梅宮
迎火や明る凡ハ西す吹歩り　見見
　　護物

送火

送り火や附木一ひら苔の上
送り火もきえる所の月ふる　卓池
　　大梅

草市

草市のたつとゝくれハ暮ゝ
戸も明ぬ門ハよ来て草の市　由智
　　省翁

魂祭

魂祭の西瓜の蒲も新く出ぬ
芋茎葉の赤ゝもうつる西瓜
ひらく赤ゝ鄙ぬ茎ゝ取葉ゝ　梅鳥
　　庭し
　　葉蔭

西瓜の網やあまりとゝへんぱ一ぱき　一昊

魂棚

たまだな　たまだなかけたる人の家の魂棚やまの花くさの類　若人
あたまの前の物の丸盆　五木
たまだなを祝して御米解を奇　佛兄
魂棚をあらし陸色の事　千鶴
あたまを美へてあるやまつら

棚経

棚経の行やあるく義の者　風朔
たなを経中僧坊を七一人ぶ　嘯谷
棚経中一家一軒ふ客佛　小義
新花しらも花を折て和義糸り　二三

墓まゐり

代々き花を折て和義糸り
四の年の芋ゆて掃て墓まゐり

蓄ふ
一首

客中ゆも能掃ひとり墓多魂　麻交
彩ゆのいれ沙義ゆ生多古中　逸渕
多年のうゆ月中墓多郎　復物
鬢中ゆうる新宗墓うゆ生多玉　千鶴

生身玉

墓中ゆうて墓ゆのゆ寿盆のゆ　宮古
盆ゆうゆの彩ゆ生ゆう盆の月　雑類
新盆つ来ゆ人の来ゆ盆の月　幻芝
仏掃ゆ生ゆ生ゆ盆の月　心阿

盆月

東溟　由誓　月樊　野泉　素蓼　佛兄　恭里　丸田　夷則　蓬丘　卓池

西瓜　晨支　画堂

花火　永本　有義　松秀　抱像　怪茶　松什　吉谷

殘暑

みな人の眠りきらふほどの暑さかな　梅室

声ふしを転てすのゝ下残暑哉　松什

夕紙のたらひし紗の老ん舞る家　鼎湖

行るれハ風の身ゆる残暑かな　斗遠

灌あし手葉の白ふさん暑哉　波岡

汁の実の出作る秋の暑かな　一具

暑負る人の根気見角力取　梅室

古里て稽古よふやく角力取　岳風

夕暮をさびしがらする角力かな　江夢

起入手縄の出て来るまくり哉　大鵬

相撲

向ふの大きな男を見めくり角力かな　祖々

稽古ひとりまけなからたかり角力かな　蓬陽

横手を打て見しき角力取　風朗

関を見て紀国のひくしも角力取　涼芝

勝まけの後そまへみしかさ角力哉　素文

三舎まで象潟の光見る角力哉　一宵

出して見ん何程ものか角力取　由哲

表の眼そ日の手すりに入る秋の風　岱年

暁に見えて眠れし萩や秋の風　小桐

宿入て草手折くる秋の花　若非

秋の七草草をひろげて添し小家　葉鯨

秋風

雀斐　卓池　一具　戸籟　晩秋　且松　嵐外　雄類　室町　氷谷　心阿　松什

志扇

初嵐

年彼　由警　蕉竹　千軒　一具　渓翁　千奇　盛年　史千　かつら

露

九霄　一異

嵐山　山嶺　得芸　宇英　文警　柳言　風朝　湖山　碧山

霧

うつり　波間　由雪　己子　京信　千鶴

霧手　汐路　一異　多み　京信

稲妻

原ふるさと二百十日の雨降りて
清水寺記二百十日稲妻月　得黄　松孫

稲妻やさゝ長き小篠の折しく　卓池
いなつまをうそしらぬ枕うち　松什
稲妻や豆の葉の兎のつきそこ　鳥外
ふる月ふる稲つま濡れぬ袖しら　李旦
稲妻やあらもふぬ袖しら　蓬宇
いなつまや一筋しきる寝ぬ　ゆうめ
稲妻や一夜の五月雨風　由誓
いなつまや数点の池の水　板玉
稲妻のあわれ古の橋の雪　五株

の記

いなつまや隙なく雨せきの山　洞天
稲妻や皆戸ゆるむ牛の鞍　一竜

堀堀の新ゆるゆる明ゆるゆる　丈拙
立ち雲の絶ゆる間ゆる明ゆる　拙孫
ゆるゆるゆるゆるの雲の明ゆる　成酌
鐘ゆるゆる連歌待会ゆる明ゆる　百畝
旅人の笠ゆるゆる明ゆる雨　南志
川屋のゆるゆる明ゆる鮎　由計
里をゆるゆる明ゆる我　千輪

半稲のゆるゆる明ゆる原屋　蕉孔

速稲　完江
若狭
一異
物言

養穂　獲物
根人
万頃

本稔
取　素行
如義
蘭和

四刈　清子
晩稲　得喜
后殺岸　月貨
万頃

初汐　五玉
八朔　万頃
駿馬　牛玉
足底
赤本
磐山
卓池
紫金
走川

放生會
帰途宮
ある
ある

高潮
怪茅
茅野
東溟
風湖
史千
梅迫
禾木
万籟
立示

井資
由誓
梅宮
手綱

獲物
壽堂

遊涼
由誓
梅宮
卓池

連井
東溟

拓俵
一具

流芝
祇白
東溟
幸舍
東溟
千鞆

引板

川板の音

案山子

似て案山子

水

水の音

陰船　降あめふりあられふる新酒のいをのみ新酒する　紫文　琴推

蔵船　蔵をとる船をとる色猶不絶　大鵬　拙言

初鮭　鮭尺もとる船のようやはなとし　拙言

崩築　築もとる八雑のとれしう藻の蔭　由警
もとる雑う里の船あり立の名　得雨

焚稲　焚稲よりやはり蔵の岸を築　拙言
月もあき赤黒の立ち岸の築　祖々
とをとる沈もとる築のくつまを　由警

河鹿　河鹿一年鳴くに鳴くかしくつかぶ　万頃
鳴時の年けハ鳴る河鹿　菜節

沙魚　沙魚のさいる事を結ひ立
沙魚可沼とをとる　丁知
　　立

秋市　町中へ出て持ちあふ一年の秋
持年中　賣数とる松の月　由警
　　袋金

新はる

搗衣

新しはるの吟　柳雅

新しはるの搗衣を聞いらい仕し　得蕪

山畑に搗衣の音の聞ゆるは　蒼孔

竹を切へ立て搗衣　太竜

搗かりる見たりある砧かな　若非

十たりの手伝ふて搗衣　剣春

新しみして搗衣　志紀

聞くもひとつ搗衣　永木

村中に搗衣の音　一貝

夕べ搗衣の音　里冬

遠寺の夕べ搗衣　立尓

朝寒

浪寺の夕色の寒さかな　完穂

夕暮に寒さ伝へ　水仙

ゆきゆくに寒さ　路宮

暮方に又寒さ　由警

砧寒さはまの鳴る　千鶴

新寒や　長屋のあらし鶴

朝寒や　蕨の刺の先　蕨子

竹寒や　鞋の音をつまづく　麻和

新寒や　日に向て刺る鶏の音　寿泉

朝寒や　鍋のうちきれし　南枝

寒さ　冴　沖

夜寒

用のあれば世のくるしむ事あるを身
新米をこぎくるのちこの折うけかな　滝顔

きりぎりすなくを夜の寒さかな　枕像

きりぎりすなくを夜の寒さかな　蕪村

蓬の柄をさして寒さ入る事を身
かくつりし机又出る夜寒哉　拙宗

露寒

寒さの哀はあるさくあるうら
寒さ一汁五菜体も汁を汁　若非

冷つきの行まで一年年
寒さ月の冷えてよりうら　千軒

ひやか

月底
唯山

新酒

秋日和

新酒川の青葉て碎る秋風哉　拙宗

はせ川の新酒の風の風通　風通

のかるるも新酒の新酒哉　徐全

酒屋の新酒の新酒の新酒哉　大梅

新酒田もとの新酒の新酒哉　玄子

一陸刑部の新酒の新酒哉　蕪村

平編酒や二条の通る新酒　卓池

摩耶の通る新酒の新酒哉　由誓

秋日和聖を見つ人和尚見つ聖
きまゆしくとゆくゆくゆくゆく秋日和　一具

長夜　江月

秋去　由蓍

一具

紫金

千鈴

漢角

卧息

蒼光

秋乃暮

蒼孔

山霞

砂粧

三和

由誓

多高

蒼鈴

地洲

庭し

波田

天拓

拓象

柿

由誓　松什　水竹　江月　黄山　波団　蒼之　千鶴

葡萄

得蔵　里女

菊

蓑

祖文　寺化　而后

秋の水

卓池　渡物　沙路　平山

霧

梅令　由誓　一青

秋雨

[illegible]　大樹
[illegible]　若狭
[illegible]　陸奥
[illegible]　能村
[illegible]　夷則
[illegible]　阜池
[illegible]　一具

[illegible]　一肯
[illegible]　傳龍
[illegible]　[illegible]

桐一葉　新敬

[illegible]　是誠
[illegible]　陸奥
[illegible]　素新
[illegible]　[illegible]見
[illegible]　大樹
[illegible]　東陽

[illegible]　由譽
[illegible]　萬山

[illegible]　冬岐
[illegible]　山若

梅実　梅園　由智　尼外　獲物　東溟

大梅　阜池　一吳　蔡軋　堂馬

梅遠　陸湖　淫斎　其山　護物　松什　永拙　東洋　千鶴

梅亀　梅下

木槿　九義
蟬鬢　左橘
波回　西行
藤丸

葛花　左兵
松五
枯百

一首

蘭袴　雲清
鼎左

鶏尾草　玄人
和柳

曼珠沙花　一昊
崔叟

左兵衛督　風石
仮名序

奉仕花

[illegible]　板雲
[illegible]　抱儀
[illegible]　一青
[illegible]　柏実
[illegible]　有喜
[illegible]　夷則
[illegible]　湖山
[illegible]　雲仙
[illegible]　岱年
[illegible]　一臭
[illegible]　風朝
[illegible]　卓池

芙蓉

[illegible]　斗遠
[illegible]　素樣
[illegible]　豆松
[illegible]　大板
[illegible]　千鶴
[illegible]　林曹
[illegible]　祖文
[illegible]　蘭水
[illegible]　卓池

[illegible]　秋海棠　貨物

秋海棠

我木香

萩

秋海棠の吟　芝石
秋海棠　蓬宇
戸樋もとまでうゑて秋海棠　柔木
一見

我木香の吟　蒼孔
我木香　梅宝
苦竹列植の中一叢の我木香　卓他

萩の吟　而后
萩の吟　丁知
萩の吟　由誓
萩の吟　一青
萩の吟　揮江
萩の吟　芹舎
萩の吟　抱優
萩の吟　一具
萩の吟　雀林
萩の吟　此方
萩の吟　琵岳
萩の吟　杜鵑

萩

ちはの
ちか

洗れしはなや乾きりう萩の花　史千
ちらく〜と搖きて乾るや梅の萩　風朔
見ぬ時のうつろふ萩の色　千梅

あるや中萩の声　梅舎
きられはきやうや萩いこる色　渓舎
夜はの色のうつろふ萩の音　若狭
内よりあるく秋ハ萩の色　風朔
出るくるれはちん月秋ハ萩の音　東洋

磨戸門ち咲ちるちはの洗れ様　未木
池の水ち四ちるけて蕎麦の花　梅舎

稲の花

ちるの先ちるみはの色　若花
ちれてちるちるちるやちるての花　千梅

ちるれや中ちはの色　龍風子
いはの色先ハ安快のちるちる　梅江
稲の音や花ハ吏ちる家のハ洗　波国
ちる家の後洗ちる一手のちる　風芝
咲洗くちるく稲の和花ちる色　幻芝
ちるちるちるのはて洗の家　義象
大きの乾ちるちる稲の色　董礼

家へちるちるちるくちるちるし　水牛

屋の

絲氏

閑居
而后
斗米
冬枝
月波
夷則
蒼乱
得黄
蓬宇
河天

瓢

芭蕉

南枝
巴水
松一
杉居
嵐外
寿化
曲阜
梅京
波国

花壇

[illegible] 素行

[illegible] 紫人

[illegible] 左京

[illegible] 清聚

[illegible] 義之

[illegible] 和成

[illegible] 千軒

[illegible] 虚白

[illegible] 由計

桔梗

[illegible] 草池

[illegible] 慈光

[illegible] 葛兩

[illegible] 山外

[illegible] 宇逸

[illegible] 院芝

[illegible] 風朔

[illegible] 錦枝女

[illegible] 大梅

[illegible] 一貞

[illegible] 波路

芒

蓼

苑

蓼花　夢明

阜池

茂花

白山

東漢

千歳

紫苑

柳宗

由誓

伊勢

東海

野菊

菊花

一具

車舎

夷則

一唐

蒼花

岳風

里枕

悠々

平山

一具

酸漿
鳳仙花
蓼花

鬼灯や月まされハ尚赤う　丹菴
我らの手をあてしも実の小尼寺　貞則
酸漿や娘子二八の赤いろ　林曹
絲の花んで咲るや鳳仙花　素駄
佐枝より赤く咲ひる鳳仙花　浄香
かくれての池ハ行つく蓼の花　梅儀
照る日和広くなん蓼の花　雨竦
一節ハ農業さかりての花　基帯
取りてても水ほとり蓼の花　逸渕

刈稲
芦の花

葉の音も水に流れて蓼の花　素鏡
穂揃ひに夕日や稲の此方　大梅
小雀まで人の業の稲の浪　鳥山家
赤らんで稲の沢みる谷の底　青子
稲穂さし稲舟の匂ひぬけよ竟　湘巣
こぼれしと稲わけ出る芦の中　月盃
まるく見えて広き稲の舟　千執
かりうし所も去りて芦の花　卓池
芦の穂や雨ハ濡ても浅い流　ちとのら

菊之

一 尚古集
黄山
五湖
信年
多多
石乃
風朗
素伯
徳帰
夢軒
宣来

尾花

尾花の名は枝葉の末の
ふるえ葉の葉のもろもろ
葉の花
葉の茎の葉もさかりの
きくの葉の時の枝なし

峠の尾花
一日の
尾花
尾花

事校
梅宮
枝曹
山外
千鶴

大梅
旭洲
小室
藤村
松郭
古疎

新古今　尾花の中より人の声　千載

夫木抄　篠ちらつきそのの草　由誓

うらつる中置こ侍る山中き　芋意

一首ちの夫木抄ゆる布織うれ　溶う女

雪ものをとめこ布ちるこかるまこ戸　英山

月の露ハ赤ゝみもまこ鳥こ　五玉

竹ハ風の中もまこ芝くまこ芝の恵　九寿

ゑ迄文書を何ゑ式上　松の芝　葉翁

未れ

鳥

萬

木木

旬光

虚白

[illegible]

仙寿

相堂

千粒

梅亭

[illegible]

梅

ぬ

も

る

てゝ上洪城のりうけや梅もき

葉ちさ上刷ゆ梅すゝ文

ふるくてきれて文ちる梅うこ芝

梅ハきちつる陣の梅の色の寺

振ちけて文きもちるハ芋ハ郷

芋畑の乗ゝ月てうちゆ

ちうこの芋を高ゝや出立汁

荊蕁和ゑを含んて見ちうへる

うるかの梅の梅ちさ梅の餞き武

末摩

木の実

椎の之

末摩やおもへもちときし蜘蛛の巣り　等見

末摩の実のひろひけり西は夕風　幻芝

惜しまし青き思ひぬ木の実かな　若非

落の音りし木の実も木実かな　青圃

葉の戸や木の実は椎のおとする　丁知

戸をたたきぬ風も木の実かな　渓鳥

実も実も落ても椎の木　丁知

ちぎれ椎木まくのまも実り見　一歯

菌

茸狩

初茸やしきつきる露の上　蒼乱

松たけや山の雲もおもし　眉宮

嫁へまれ山もしも椎もいくち茸　旅通

山ちめて木のうはとねぬる哉　悠之

たいこの生れはえ身る木の子かな　且松

笹解て乳は生木の子かな　完伍

茸狩やひろう時そ露の上　蒼乱

見るといふて袖の菌狩　蕗女

茸山や足もとて時るの鏡　戸須

たけかりや人見のこしのおもし　北亭

ちぎれてこの露は笑て菌狩　東涯

人里　　寄風
熟柿　　乾葉
木賊　　寄席
うり　　メ〻
　　渡物

蓼　　英山
蓼　　楠山
草　　可勢
紅葉　　紅葉

紅葉

留らぬ押ゆる山ちゝのめぐらる哉　蕓亂

うるしとる寺の後ぬり紅葉哉　丈々

掃よせて毒のはてし紅葉哉　米翠

せを野きかで夕日流るゝもみぢ哉　里喜女

須磨もと桂しのみちきぬ赤ら哉　似しく

蓬やくぬきかしあるは紅葉かな　大常

紅葉して積ぬかたらぬ春との家　梅通

業境にて紅葉散つ枯木桃　蕉竹

足跡をさらめ兵ずり初紅葉　主尓

鹿の手負行し山のもまちりかな　佳年

十八里深い紅葉の屏風かな　一具

家蔵し当すかゞけしうち哉　梅家

七夕晴しくく日倹き紅葉哉　東潤

紅葉もや路をあゆる切通し　子鶴

虫

虫の声ちる雨見ゆる虫の声　梅窓

秋の夜の二度と名のつく浅茅哉　得蕉

明月のあかる前の虫よ起す家　許友

そよ細や花もかすみ虫の声　由誓

鳴虫や飛虫の行る浅茅かな　葉三

去る手ゆるゝ夜の虫の虫　梔緑

虫の声もと鳴て家やまぬあり　閑那

鳴止て人をもうつ草の虫　古鏡

虫なくや身よ草むら夕鉤る　丁志

秋蟬

蟬の音や六十九人ゆゑ捨て山　蘭郁
あきやすく鳴きやすく一つの命　嘉准
ちやりよおろくやうの浦アキガ　葵軌

秋蛍

秋のきみそのひかりしらうつる　卓池
谷ひかりて行く街すまして明や秋の隙　江月
高のきつ明るものいのちのきみ　西里
螢蒔て手ふる秋のあきまとあ　棠功
地ふ蒔くすまひ数手や秋の隙　東漠
蒔ふ蒔ふ世を古ひくく蒔ふ　嵐外
秋の秋を光ふくくもふ風　布山

秋蝶

ふふとおよ尺遠ふりして秋の蝶　鳳朗
さやそもあきりをひらひと秋の蝶　沙鳴
数あきふふくみふや秋の蝶　海蛍
時くれと恨をまるれも秋の蝶　玉示

秋蚊

ぶふ蚊や蚊ふも交ふをつつ　鳳朗
ぶふ蚊や蚊ふ蚊やを蚊ふ蚊ふ　素蝶

秋蠅

何もあくはくくあふ蚊秋のまく　大梅
るの手ふ元手ふつふ秋のまく　芝石
一ふきふふはく強て秋のまく　蟹水

遠山れい蟲一ツ秋のさく　山鶏
人ゆゑ生れさゆゑ秋のさく　拙言

みの虫

ちの実や庵入る事の多さう　菜静
みの虫ハ秋しら雪のうれ　花外
蓑虫の時も秋さ実よりう　稲州

蜻蛉

ゆうまを考てゐるとんぼ事　卓池
蜻蛉の後のさく蘆ゑ　多あ
くさ団扇等ゆえるとんぼ事　相堂
蜻蛉をうてゐるとんぼ哉　太哲
蜻蛉のきれ出るハ面ゑ　素心

蜻蛉ハ元ゆ草ゆゑ　素堂
蜻蛉やあるとんぼ事　拙言
蜻蛉や中ゆ出さ枕ゑ　朱溪
蜻蛉や行をゆ事上ゆ

清れもあく時ゆ事きり事
百あく古んのつよさゆ　沙路
涼さゆを行くゆ　一奥
蟬のゆ蟬ゆ時ゆ　拙言
ゆく丹ゆ蟬ゆ　示后
ゆゆ事ゆ行ゆ蟬　逸漁
史ゆ行ゆハ行ゆ　卓示
きゆ事ゆ事ゆ時ゆ蟬ゆ　車旧
山村

竃馬

古寺の古き露あり[illegible] 其山

[illegible]の古く[illegible]きかくも 夷則

啼[illegible]とまもり[illegible] 卓池

釜の煮ゆる夜て[illegible]いとゞ哉 一具

[illegible]葉の根[illegible]いとゞ哉 甚山

火を[illegible]いとゞ哉 夷則

啼[illegible]竃[illegible] 三江

[illegible]いとゞ哉 朱溪

蜻蛉や[illegible]月の出[illegible] 流芝

蜻蛉や つゝりさせる風[illegible] 玄子

蟷螂

蜻蛉乃[illegible] 溪鳥

かまきりの[illegible]の雨丸 汐路

蟷螂や 行く[illegible]足 五郎

かまきりや[illegible]の陰 東后

蟷螂の[illegible]や 日の[illegible]水 山草

螽

ふる巣[illegible]の気 鳳朗

田へ[illegible] 得芝

[illegible]の中 等方

野に来て[illegible] 由誓

稲すゞめ

稲すゞめ鳴ハとびのかれ西南なしき　梅室
人このけちた戸にゝまし嘯かいなすゞめ　貞宜子
餘の方ハ案能くれしいなすゞめ　濱吉
おそ出ても追ふても追ても稲雀　萬山

鵯

ひよどりのいなり出しさわ松の月　虚白
ひよどりや古松伐てゐる備　一嘯
ひよどりや暮くさかすを通る声　白桂
ひよどりや神もと返り出る鋒音　史子
ひよどりや樹の古りよりが出る声　由誓
世はなき紀秋とさくくゆるら　蒼虬

和名　里鳥

秋悲りまやらゆらくるら　山外
崩るゝんきよりまやし流れる　一幽
ちらりる晩き川おて時雨す　几阿
古中り古つまいやさらとり　遅流
んをとめ嫁ある須も出し流る　茶静
梯るやをくる姿に風まふし　双居
山のし梅ゞんさう東て庭のる　由誓

雁

風ふか出夕日のいれやさく一つ　梅室
まへのりの流るまふ音し雁の声　戸籟
おまりてハらへ去てらかり居つし　大梅
つらならもちか来ぬ風やさくる一つ　素牒

茂雄　茶山　春崖子　太老　林曹　東溟　千軒　波同　由誓　遅流　千秋　獲物　茅野　四阿　徐全

而后

鶏

啼木

行の末や紅一線一声の明れ
葉のすれき音あるも羽紅の声
時雨の行さら夫こる木あるも
百舌鳥の行や舞る蓑の人ぶす
鶏鳴や寒ふ[illegible]し松つくり
寒鳴や[illegible]る枝も動きそう
きつ[illegible]鶏の古ちる[illegible]
[illegible]や[illegible]枝ら[illegible]
[illegible]ん[illegible]てきそう

[illegible]

うつら

[illegible]の[illegible]鶉の[illegible]　大梅
[illegible]　湘山
[illegible]　眉山
[illegible]　風朗
[illegible]　梅舎
[illegible]　洒子

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　汐路
[illegible]　丁字
[illegible]　嵐山
[illegible]　富梅
[illegible]　佳峯

[illegible]

[illegible]　永木
[illegible]　芸之
[illegible]　志保
[illegible]　千駄

[illegible]　太梅
[illegible]　雲濤
[illegible]　小柯
[illegible]　由誓

[illegible]　芙山
[illegible]　白阿

帰雁

[illegible]　鳩吹

鹿笛

この

[illegible]

みとり　巻列　桜京
菓月　大桜
卓池
風明
山外
乙彦
立陵

九月

盡

[illegible]

連山　卓池
雀建　伯遠
氷柳　芙城
若狭
千鶴

林曹
露谷

行秋

川柳の句ゝ作て四季ハゆく　三徹
ゆく秋を彩れ切ぐうの蓼　一時
行秋や〳〵切ぐさる叢祠の石　助宣
ゆく秋や赤ハ藤ゝ藤ゝる川の青　波国
明の笑ゝてゝるゝ行秋の影森寺　遠国

暮秋

ゝゝ樹の古の葉ゝ――　蓼の秋　素風
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　秋暮れ　東順

秋朔

秋のゝゝりゝゝ時ゝゝめ和庵の梯　一茶
寒ゝゝふゝゝ法ゝ和ゝゝ　護物
大文字や先ゝ先ゝゝゝゝゝ一ゝゝ　蕉孔
ゝ鈴を一四ゝゝ和菓の古ゝ
ゝゝふゝゝゆゝれゝ　草の花　卓池
咲ゝゝゝ貴ゝゝゝゝゝゝゝ　蓼系
植てかゝゝ先ゝゝゝる松福寺　濱吉
鈴植の稲ゝ蛩のゝゝ　岱舟
夜ふゝゝゝゝゝゝ扇庵の別荘　卓郎
床の月の行ゝゝゝゝ稲植ゝ　大海

部戸青柳妙りとうる芒の穂　桜通
在まちや高き秋の川あかり　助宣
猪来りて月見の一夜過し　小叢
暮れ行きて西瓜もなし秋の暮　大梅
もろし花やはられ手に乗る尾花　蔦洞
くりのぬ葉いくる花の相ともす　可柳
露ちるさへ初うちし後の雛　大鶯
たま祭見えるゝ九月十日菊　梅寛
秋の暮や菱けるよりのは時されし　九角
出代や生家の多きに糠袋　蘭乳
粟刈や一夏つくすゝ中すゝ　護物
棺の欸まゆりか日照雨　蓮宇

垣の外ある紫苑咲花常　大笑
石垣や何郎花とす秋の柳　鶯風
寂しさや花すゝき色若き表　風朗
虎子の艶見ゆるや空見送りぬ　逸閣
行先の冬待霜やつるし稲　由雪
秋のくも猿来きしまゝかゝりたる　蕉蘇
秋寒くしてたかのの露や秋寒し　水松
晴きつゝ波子のや秋の色　ゆき女
兵ても来るも寒てる流れの風　史千
秋の影の痕の跡や入る日かり　蕎雨
薄の牛の縁も先にて外の去　萬見
松の声や黄昏の去る　桃舟

[illegible] 斗南
[illegible] 庶く
那宝和 関寺 [illegible] 椽の先 之椽
[illegible] 長の異 [illegible] 丁歩
冬戸和十五歩 [illegible] の一風味
[illegible] 和 雷 [illegible] の香の 赤雪
[illegible] 和 [illegible] の秋 一具
[illegible] 業の [illegible] 芋表
問人 [illegible] 書の [illegible] 和 釜 [illegible] 千歩

初雪

今人五百題発句集

冬之部　八雲　東溟　輯
　　澁壁　千輪　校

初雪 [illegible] 蕎麦の墨　霞物
初雪 [illegible] 朗
[illegible] 初雪 [illegible] 一角
初雪 人の [illegible] 椿壺
[illegible] 市の先 初雪 [illegible] 蕪屋
[illegible] 初雪 [illegible] 見
[illegible] 初雪 [illegible] 汐の [illegible] 麻交
[illegible] 初雪 [illegible] 芦の 初雪 [illegible] 由蓍

黄山　白天　粗文　史手　大鵬　波国　太城　逸淵　未乗　一具　千輪

ゆ　紀

蒼紀　大樹　青谷　待賢　紀僧　樹雲　一奥　伊路　鹿く　九紀

山外
嬉見
眉山
蓋帝
水和
對山
寸風
加一ら
五渡
素樣
方行

波文
光外
丁生
角庭
史子
由書
卓池
禾本
平山
助宣
溪翁
水井

雪吹

志手紀

きつねゆく夜や[illegible]窓梅　双鳥

二度掃く路は掃けぬあの雪　清民

大雪や[illegible]八[illegible]新朗　竹有

押[illegible]雪の[illegible]　東罔

咲すゝむ風呂敷[illegible]の上　松什

旅の空[illegible]やうて[illegible]袖の雪　雪占

与[illegible]夜[illegible]早くて[illegible]の雪　祇白

[illegible]の風呂[illegible]　茶静

一足[illegible]の雪　祖々

あかるさ[illegible]縄の出て[illegible]　風朗

[illegible]の休み[illegible]　東慎

[illegible]一り[illegible]　幸舎

ちる[illegible]松の雪　千毅

小[illegible]雪[illegible]　逸洲

姻[illegible]の明[illegible]　助室

芦の家の戸[illegible]　丁哉

[illegible]　大梅

[illegible]　来渓

[illegible]　華静

[illegible]　桐室

[illegible]　炉麻

初時雨

[illegible]

枯篠　蕎丸
鳳朗
素樵
杜鵑
杜育
梅宮
鶴年
由誓
乗月
梅嶋

雜

[illegible]

草池
采未
素亭
山外
照星
由誓
一湖
史千
蕉窓
得蕪
駝秀
二雲

五湖　雪多
兩崖　深芝
屋深　鳥津
松什　年山
海系　赤雪
一奥　大梅

爾

霰

霜

御堂
于血
口傳
藤原
西仏
東院

一首
紗
羅
子
爲子

黄山
松濤
卓池
車牧
桜京
義光
上牧
手鞠
抱像
盛雲
大歳

[illegible] 山物
[illegible] 畝古
[illegible] 山外
[illegible] 流芝
[illegible] 杏葉
[illegible] 惟章
[illegible] 樵魚
[illegible] 湖
[illegible] 屋
[illegible] 梅室
[illegible] 梅手
[illegible] 蕪

冬

雨

寒

[illegible] 遠海
[illegible] 多
[illegible] 野里
[illegible] 蕪野
[illegible] 水木
[illegible] 千秋
[illegible] 大鵬
[illegible] 呂川
[illegible] 葉行
[illegible] 石瞻

水柱

金襄

万籟
一枕
梱堂
草枝
未深

岱年
崑外
由割
黄丹

律無月

小春

曾見
湖天
陳芝
草枝
蓑礼
未深
千熟

乱鈴
林曹
大桜
鶴

霜月

九つの鐘八つうちくかまの音　斗山延
佛の日二たびつきて小春かな　多よめ
庇すて梯條のとしく小春哉　命青
霜立の雅えりけるかな　六是
海辺来て休むかあきに霜の月　蕉了
藪かけの霜葉拾ふ小春哉　二丘
二三日時针ちる小春哉　与方
霜月も大かた過て松葉哉　梅窓
木の実の霜月重く見えけり　路方
霜月や梯以五本の庭落庇　史于

芭蕉忌

人の行ればつゞく野径は芭蕉哉　一青
角もなき跡や翁の忌日哉　多よめ
来る月の無夜つとめ旅寝哉　月庵
出るるも桜の先あるしぐれ哉　甚山
風雅あるや芭蕉の小実哉　太珉
まる尾に人ふりかゝるしぐれ哉　退歩
翼の置か嫁りすまぬ跡ばかり　梯二
たゝきりて柳のゆるしはせ哉　千載

初冬

初冬や棹さし霜や鶏の声　麻更
初冬や栗にまけし藪子の味　金菜
初冬や刈田のあとの薄かな　栝儀

冬至

神送

大祓

祓額

供物

算賀

神迎

逸淵

茅輪

沙鳥

一月

定外

儀年

祓乃留守

夷講

擣衣　夷簾　濱水
家の金さそはよるの夷簾　我亮
明のちきの船のさかしかの夷うら　年池
世の浮れいまもなほ屋の夷簾　大橋

寒雁　旅ゆく雁かの雁人
雁ゆく鳥も言れもそ物人　俊物
　　白光

吹草　裝束の吹草の掃部寮
はつ雪の雪ちるかの呈集　逸原
山屋風の吹草の中の風　永木
　　千穂

神楽　新年の菊も年の神楽五位六位　梅宮
年ちかの神楽の明の神　由誓
ふかりを面のうてあるかうふ　風朗

里うら　毎夕の杉の雪の里うら　一昊
雪ちかるの雪の里神楽　素秋
杉山のもるとくしかうら　万像

十　岩つるの明の神　人の和
　　年ちかの赤の実の十歌葉　風朗
　　一歌さの年の十歌紙　寺梅

歌　何年て魂の年の十歌うか　俊顕
　　年の年の十歌うか　葉部

湯を持て出る千歳の
鼎かゝ様つゝかるゝ十歳の義
仮初の思ひたるゝ丹歳うゝ
一切うゝある中十歳の志ひ掛
ゆき暮て十歳の私もたのゝ身
小姓も人をうめ花の十歳うれ

田乱
弄化
浍益
山仮
一吳
抱儀

達ヲ忌

達ヲ忌ハ伊勢伊の点達ヲ忌ハ難の中端たのまゝ
侍秀侍和師よひゝる紀芸志

沙珍
器堆
李曦

一肖

侍命講

侍秀侍和師ゝゝ法義
常ゝ山寺特ゝ法義
歳先ゝ講千
侍秀侍和ゝ
業大和七識
侍秀侍和先生

南枝
由暫
素行
阜池
千鞍

本ゝ本ゝ歳
大ゝ
ゝの
義ゝ
十月
時ゝ

歳をさわきの日
法華経
侍秀
人ゝ
ゝ山
侍秀の
侍秀

葵紀
一具
渡物
義了
舞山
千鞍

帰取載

帰佛名

鉢たゝき

寒念佛

宿より角ちの名うれて世取載
行のうゆる者をしくゝ世ちう世
岩形に苔ちく人ゝ佛取載
ちうち清ちやちつゝ尊和世ちう載
枝傘ちち戸口のセ中一佛ちう西

由誓
祖郷
三岳
得益
東漠

椰の業をつむ人ゝ和世仏名
本のちうちう世ちうかた佛名
中山ゝ隣人のいゝ和鉢叩
濡ちも帰ちちち一ちち和

護物
多ちあ
而后
山賢

鉢のけちに橋多和ゆちう鉢叩
ちに仏ちれをやゝたちも鉢叩
ちちちちちうゆちを養や鉢和
帰いれてもあかちちち和世
ちちち寒ちち毎ちて寺鉢叩
西山ち月に養ちちちちちち
ちちんひ一和世ちう鉢叩

波和
風朗
松什
由誓
多ちあ
東漠
千鶴

ちちちちち先ちちちちち世念佛
大ちちの寒ちに寒ちち寒ちち
行のちる寒ちを郷山和世念仏
詩の中尊ちちう寒念佛

鶴林
雀斐
尊阿
史千

大原條

蕨葉

嫁いりの通てくる物を仏
はるゝ河條のなちれ色体
紅葉てくれてしまれ色仏
元文三年あたりの大原條
墨ぬりの特色ゝ和大原條
桔色て淋しう考ふ枯ちる蕨
二日あやり二度る新く蕨葉戦
薄上る温泉よつまてくく蕨ゝ
ゝいまゝ白の蕨葉色
蕨ちゝゝ木て新く春ゝ

之枝
松一
護物

遠渕
湖人

蕨孔
大松
其山
而后
水狗

木

弦墨

うゝ枯ちて波の川ゆく枯ちれ
ひとゝのゝゝて枯ゝ蕨ゝ
桔出て海ゝ蕨ゝ蕨葉色
限ゝの和ゝ一法くく枯ちゝ
ゝ新ゝ枯ゝ一枝の蕨葉
場のゝ木ゝ枯ちれて桔蕨葉

大樂
阜池
一昊
蛙水
兩樂
子牧

木の葉霜裏て枯の角
散て落て枯ちゝ木ゝ
ちゝ枯ちゝゝ木の葉
蕨つくを雪ゝ作ちゝ木の葉色
ゝの枯ちゝ枯木の葉古ゝ枯後の原

松宮
快楽
方籟
添芝
山外

冬

木立

吹ちらすあらしの末の葉ゝ哉　桃雪
掃ゝ合ねゝ枯ゝる末のそゝ風　素覽
ゝつゝきり梢の高る末の先哉　羅山
花きゝ梅ゝ哉ゝ梅ゝ哉ゝ梅ゝ哉　蕪軒
梅ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　素堂

紅葉

紅葉ゝ見ゝられゝ家ゝ哉ゝ哉ゝ哉　逸閑
紅葉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　之路
谷川の紅葉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　仲蔭
紅葉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　市枝
紅葉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　左爾

風

紅葉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　由誓
風ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　陳之
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　岱年
本歌風の哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　夷則
風ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　多あ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　悠し
本歌風ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　牡警
風ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　山馬
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　素山
本歌風の哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　復翁
風の哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　柳京
川哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉ゝ哉　雅文

枯柳　散紅葉

風なし柳をあれと山柳哉　東隠

古のはしま崖まる橋の木隠す　千穎

枯てからは淋しくなる紀柳哉　芸非

見るたびにさし枯し柳かな　想之

うらは河岸の柳なれや枯柳　東漢

葉末におちてのちいつまでも哉　風朗

散てから猶紅葉に見し松の秋かな　萬居

その身の柳そちる紅葉哉　溪砂

岩の松を流るる秋や散紅葉　南枝

帰り花

咲かへ見ぬ枝にも帰り花　梅宮

帰り花外の見ても思ひけり　季流

散葉をつれ帰り花　一肖

見られぬ日のこころか帰り花　角虫

帰りたる枝にも帰り花　大楳

けふ庭や咲けし帰り花　流芝

さきそめし時の帰り花　杜蓼

咲けるの上に帰り花　完穂

散るとも花木の帰り花　末木

鶯の羽かくれて帰り花　山外

折りかけて見れは障子の帰り花　葛航

帰り花咲きそめて咲き来る風　風朗

枇杷の葉

玉枝
千載

由誓
清し
為尤
相堂
多とも
後拾
一具

山茶花

沙弥
拾遺
大納
而后
下知
卓文
義菴
一具
兩住
幸舎
千載

冬乃部

ハウ手

[illegible]年
玄子
[illegible]

由誓
柏子
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一具
[illegible]之
芝石

冬つゝじ

文拙
[illegible]
千敷
[illegible]
味舎
[illegible]
[illegible]山

冬牡丹

山背
[illegible]
[illegible]

[illegible]

水仙花　庵

[illegible]

水仙花　由誓

[illegible]

水仙花　丁志

[illegible]

水仙花　雲山

[illegible]

水仙花　紫金

[illegible]

水仙花　蓼乱

[illegible]

水仙花　斗遠

[illegible]

水仙花　東流

[illegible]

水仙花　千秋

[illegible]

枝尾花　朗

[illegible]

枝尾花　悠々

[illegible]

枝尾花　鼎左

[illegible]

枝尾花　波間

[illegible]

枝尾花　喜山

[illegible]

枝尾花　曹夢

[illegible]

枝尾花　柳宗

[illegible]

枝尾花　山外

[illegible]

枝尾花　千秋

[illegible]

枝尾花　卓池

十月ごろ咲ふうんてうれすまと　麻文
ふるゝ枝の沈うるまるや枝芝　悠々

菊の花

菊の色の移りやすいもの　由誓
菊の花のうつりあるかな　羽天
菊の色の一枝ゝ手折　林曹
菊畑や菊の咲のよ人も花に　若波
おくるゝ人ゝ菊の蒼　万籟

寒菊

寒菊や霜の枝のぬくゝ　蓼紀
うんぬくゝの花咲ひらく事　由誓
寒菊や寺門の敷物を敷推

寒菊や十五夜のてらゝ日　長義
うんきゝや仏ゝて居る壁の山　百籟
ゝゝ菊や門際よ面ゝきてゝの立　溪斎
かゝもきゝや篠垣遠るぬの移り　知岳
きゝ菊や義ゝ寺ゝる窓の庵　鐘力
菊を抱ハゝ菊の色みゝひゝり　千籟

石蕗の花

降ゝて降ぬ日のあゝ石蕗の花　一青
花ゝ石蕗ゝ屋ゝ石蕗の黄葉　鈴丸
海ゝのゝゝゝゝゝ　護助
ゝゝゝゝゝれゝ枝のゝゝの花　千籟

枯蓮　由誓

枯して風も かくらさて 蓮の葉
枯蓮を 降る雨 ていうく 春の朝　杜う

枯芦　野子

枯芦や 人の 枯れ ハ ふるさと 気
うれ 芦や 流れ ふる の 風の 音　光外
吹 て 残る 芦の 枯葉 ゆ 新　卓池

冬の月

冬 枯や 宮 ふる 加 る 之 上 山　一函
冬 枯や 松の 音 よ の あ る　一映

枯 ふ ま 来 ち り 々 孫 つ ら　若了
苔 新 色 も 紀 ふ ぶ の う れ ま 々　由誓

草枯　大脇

草 枯 や 男 へ し
と り ま ち 紀 し て 枯 ふ る ふ る 年　葉節
岸 の 枯 ま ま ま ま ま ま ま ま ま　一見
め ら ら と 来 ハ 枯 々 待 の 声　千秋

冬山　万頃

と れ ま ま 枯 や 山 ま 色 の 山
来 ま の 殖 て 雪 る 年 冬 の 山　白起

枯　由誓

枯 果 て 只 蕎 ら ら ぬ 大 雪 ま お
形 の 色 も 一 ま ま 生 来 る 枯 雪 武　蕎孔
大 地 を 升 ま り ま ら 枯 所 ふ れ　悠し

塵　其山

降 と 葉 の 蕎 ま ま し 起 ふ れ の 武

[illegible] 陸朗
[illegible] 古聚
[illegible] 可大
[illegible] 丹庭
[illegible] 逸湖
[illegible] 松軒
[illegible] 卓池
[illegible] 水狐
[illegible] 葉山
[illegible] 丁亥
[illegible] 東溟
[illegible] 千雅

大根引

[illegible] 野

[illegible] 一首
[illegible] 墨叟

[illegible] 大根引
[illegible] 拔空
[illegible] 得莊
[illegible] 而后
[illegible] 童馬
[illegible] 波河
[illegible] 斗運
[illegible] 卓身
[illegible] 夢仇

蕎麦刈

[illegible]の[illegible]数[illegible]して大根引　[illegible]
ぬくきを切て数[illegible]して大根引　千載

[illegible]は刈ハ一日[illegible]あらし[illegible]　山外
[illegible]刈や[illegible]又出る赤[illegible]　幸緒

千菜

[illegible]菜の[illegible]ゑ[illegible]一体の対　幸池
[illegible]や[illegible]の[illegible]千菜　鴨堂
[illegible]菜[illegible]　楫山
千菜汁　[illegible]の[illegible]　東溟

葱引や畑ハ月[illegible]　[illegible]

葱

[illegible]葱[illegible]　拾令
[illegible]二[illegible]葱[illegible]　仏兄
[illegible]の毛も掃へ[illegible]　先外
[illegible]　[illegible]可
[illegible]仙も[illegible]葱[illegible]　千載

麦

麦蒔や一人[illegible]　史千
[illegible]の[illegible]麦を蒔　禾木
麦蒔[illegible]　氷角
麦蒔や西[illegible]　沙鶴
麦[illegible]や[illegible]の[illegible]　千載

蒔

鶺鴒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろは歌もうつくしきかふそく　義経
あの千ぢれ松の中うく　破ちうり　俤く
一雫ハうち無をねうふうる事　水竹
うぐき歌ハ松ふる近きちうぶ　霞山
あしの仕ほれし夢のもとうれ　逸閑
なしえうふ多くもらぬ千ぢる　抱儀
ものをうくとうかあるうる武　斗米
ぶちうう最ふ池されおれ　東流
俳句をうるもあるよ来れ　千紙

ふうるの松をしうう尺ゆるう事
ふうちう蔵集の俳句ひく元　一臭
秋香

水鳥　加も

ふうるの多ふうるの上
ふうるの比ふうう数うう巣の先
ふううも苔も苔く蛙の海
ふうう中ぶうちふれて蛙のうち
ちきくるる鞋　中ちきく蛙の孝
ふるふ鳥しきうの中蛙のふる
ふうかり中蛙ふくくうう坊ちし地
うちよちうる高る俳中蛙の孝
蛙ちう中海の千ちう孝の行
ぶんふるく生て俳ふう池の蛙

素樵　由翁
稲成　蓼礼
杜夢　風明
梅立　而后
地助　海芝
芝石

鴛鴦

仲い板の文とせ　　禾木
きくうゝ文ひとせ　　沙路
鴨ゆ　板のうゝ　　赤白
うゝ鴛鴦之鴨　　似同
ゆうせい一先　　亟陸
ぬくゝと鴛鴦　　一貝
江の文倫　　素信

浮寝鳥

新の　　永拙
きゝ　　納堂
板きゝ　　蓼紀
鴛鴦　　言子
文きゝ　　由翁
文ゝ　　卓池
鴛鴦　　素信
文ゝ　　史千
文ゝ　　逸圃
村の　　附堂
　　宜来

木兎　冬

[illegible]　禾木

木兎の来るや毎晩枝を一枝　阜池

木兎来るや星の光のかすかなる　露泉

[illegible]　白耗

木兎時々月さす時の[illegible]　傳武

木兎の吹きて[illegible]しし　蕃の山　洞天

木のうけをのぞきて[illegible]の影　仍月

[illegible]の愧[illegible]　祖々

[illegible]も[illegible]の徒[illegible]の愧　一歯

[illegible]　支洲

鵞　野

[illegible]　この

[illegible]ぬ[illegible]の愧　一巷

[illegible]しや鵞のとれを[illegible]の[illegible]　風朝

木の[illegible]吹風の[illegible]や鵞の[illegible]　万頃

鵞の[illegible]や[illegible]の[illegible]　晨走

吹きの[illegible]の[illegible]の[illegible]　史子

[illegible]も吹[illegible]の[illegible]　拾宮

[illegible]つむ鵞[illegible]人の[illegible]　由翁

[illegible]や一[illegible]鵞の[illegible]　遺物

[illegible]の戸の[illegible]ある[illegible]　蘭為

[illegible]の[illegible]の[illegible]　小柄

庵犬をよけて西東の里の犬　惟章

きてやうもちけぬくめる　庵し
そこうの新雑捨ひぬ暖める　風鈴
えんそこ山のうらぬくめうり　蘿斧
往こきうて寄きくもあり暖まる　雀連
ちまちと庵ちよ乃暖めそ　ゑとめ
望いちきまと物やぬくめとり　越二

くぬめる

暖のの降て新やを著作　甚仙
時ぬ新も又寒ち芸芸　五株

寒

若鳥

夜興引

庵もやらぬ書のんやや秋興引　涵帰
わとのうやを蕎をもて秋興引　一角

逐鳥

将

遠うのそれし時ぬる逆鶏瓦　葉詩
大男遠うを将ちまうり　逸渕

鯨

突

海をの一あの毛鯨の遠とえん　紫金
寒新の男寄ちう鯨つき　春之二

綱

代

守

まのいちぬうこ中ちぬ由蕾
くうの行庵ハ蔵うう入うう　梅宮
到ぬ方ふ楚ちよ泥代ち　時左

羅

[illegible]戸の何所[illegible]
あ[illegible]
[illegible]
[illegible]

鮟鱇　渕蛮
乾鮭　阜池
鮭　松什
　　風鈴
　　由翰

鮟鱇の料理をもてなす　饗物
鮟鱇中　世あるの異名　新林

ゝ鮭を乾すまゝ生れそう　逸渕
乾鮭中月もあるまゝ呼ぶ　可行

久
ゝ
喰

はむ

ゝ

呼ぶまゝ鮭中の異名　徐全
傳ゝ呼ぶまゝ　夜照
桂本記の鮭をゝ呼ぶまゝ　應知
ゝ鮭ゝ呼ぶまゝ　大梅
海ゝ人の呼ぶまゝ　東溟

ゝ鮭ゝ呼ぶまゝ　鳳朗
ゝ鮭ゝ呼ぶまゝ　沙鷗
ゝ鮭ゝ呼ぶまゝ　岱年
口廣の意ゝ呼ぶまゝ　一果
廣口を呼ぶまゝ　呂川
呼ぶまゝ　徒然の意ゝ呼ぶ　徒然
呼ぶまゝ　丘の家　徒然

岳風
助宣
其山
拾古
卓池
彫右
卓命
拾意
千敬
由誓
舊礼

冬籠

会衆

折ふしは鬱もうさし冬籠
冬ごもりとは世のうきも紅の岸
後明る傳もとくふゆさうり
梅の子や藍の出来そめ龍
菜の一把喰ふて鶴
鼠よりて墨をつけけり冬籠
雪ちらり先ち紀ちふゆさうり
刷出さり和もあるゆ冬こもり
冬ごもりもちとたるは松の本乃武
あるなる紀念さうり梅法ふまつや
つくろへ人まちふさし年ふきま

花白
一具
一肖
我亮
拾意
水孤
而右
千敬

卓池
拾付

蒲團

史手
史東
澎山
業人

學調
平山
一貴
太虎
紙白
千鈴

紙衣

頭きん

葉孔
雙物
板吉
吉閑
丁吉
年池
吉樸

板吉
芙山
淺吉
學調

蓮協
寺法

一具
卓池
[illegible]
省長
石鳴

星
裝

巨
犍

掃壺
南山
[illegible]
紅蓼
掃帚
[illegible]女
紅蓮
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大をけ

ひしたち

[illegible]　蓼孔
[illegible]　大橋
[illegible]　秀也
[illegible]　大老
[illegible]　橋宗
[illegible]　川長
[illegible]　橋宗
[illegible]　大之

陽炎

冬構

[illegible]　嘉亮
[illegible]　西馬
[illegible]　松一
[illegible]　由誓
[illegible]　太老
[illegible]　山外
[illegible]　匠房
[illegible]　茶野
[illegible]

炉
冠

一具
[illegible]
[illegible]
[illegible]

口
切

[illegible]
[illegible]
[illegible]

高
梯

[illegible]
[illegible]
[illegible]

髮置

一具
[illegible]

鑄
看

[illegible]
[illegible]
[illegible]

凍

[illegible]
[illegible]
[illegible]

氷

[illegible] 風湖
[illegible] 如閑
[illegible] 逸閑
[illegible] 舍用
[illegible] 林曹
[illegible] 湖山
[illegible] 山雲
[illegible]
[illegible]
[illegible]

納豆

[illegible] 蓼 [illegible]
[illegible] 枝玉
[illegible] 清義
[illegible] 得英
[illegible] 卓亦
[illegible] 掬亦
[illegible] 貞秋
[illegible] 石外

楫大

[illegible] 甫旧
[illegible] 黄山
[illegible] 由誓
[illegible] 禾本
[illegible] 風朗
[illegible] 拙雲
[illegible] 秦雄
[illegible] 宝雲

[illegible] 万籟
[illegible] 嬰布
[illegible] 都外

炭

きえみ竈や大みそかの夕ぐれ　山外
炭をやもとめて時雨一入り　千鶴

おきたつて赤紙えらぶ炭火哉　卓池
ちちとけて塩の出る炭俵　花子
ちらつく炭や嘉永陸しの雪　梅宮
柱炭や薪くもち乾燥流　青可
結炭の貝利書そいふうを　梶五
炭の炭結ぶもなつかしき事　梶子
大さら出きあもも炭やいふ炭　一具
梅一本ちる炭やもて炭　千鶴
寒ちんま出て炭火の

冬の月

冬中よそふ茅場や冬の月　一青
所ちて人影ひやや冬の月　卓池
ちりをはらて冬のつき　林雪
梅竹のうへを洗ふや冬の月　春水
冬の月鶴ぬ飛きうり　多雪
下駄の歯ちの山のつまや冬の月　鶴湖
赤戸ぬくうを彩猫や冬の月　鶴し
きをちるうをうりみの月　東流
冬の月蝉をいつもちうけ　千鶴

寒月や面をうへぬすまをする　梅宮

寒月

雪ふる屋の戸　陽明
雪月や座下静ふ納屋の門　蕪村
雪月や上れいちつ遠鐘　蕪村
雪月や枝うちかくす藪茶　蕪村

雪入

梅萩の雪ともあいま雪の入　卓池
梅雪にて雪の舞ひ雪の入　山伯
風元あく時雪まよ入月霜寒　墨堤

雪のうち

雪の江戸ゆくし雪のうち　坡堂
ゆくうつハ落雪のうち　移林

寒巖

雪巖の戸口ひらきて雪の巖の巖危　虚白
雪巖やしれを雪一立巖　戸頃
うん夢の雪ひ寒巖の中　宋嶋
雪巖の思ひ切たる雪寒巖　素郎

寒垢離

久ありのふうれ切の風の中　宜来
雪垢離の思ひ切たる雪寒巖　千鶴

臘八

臘八や雪とあるうち鉢の雪　多ゝ
臘八や雪ふるうち鉢元　鶴石
臘八や鉢石持て座つらひ　雪河
臘八や鉢も薪も薪の山　一具

脈

脈まけしきぬうち新年の日の寄　惟草
しゝ[illegible]　支昇
[illegible]の[illegible]　小蓑

脈

あ[illegible]　二丘
[illegible]　珍里

冬の日

あ[illegible]　風朝
[illegible]　卓池
[illegible]　山外

冬夜

冬の夜や針[illegible]　椒宝
冬の夜や[illegible]　貨物

冬田

冬のくれ[illegible]　知岳
[illegible]　素撲
山岳の[illegible]　小柯

節季候

[illegible]の[illegible]　由聲
[illegible]　一昊
[illegible]　[illegible]河
[illegible]　史千
[illegible]　吉子

煤掃

[illegible]
以[illegible]
[illegible]
[illegible]

餅搗和門田の石の列しを夢

美人ゝゝ奉例てまゐり餅搗

餅よきて茶碗ゝゝ餅搗て

一具　水青

梅廉

右配

右配

海棠の海して茶碗に配り

針医者の生ゝ咲して衣配り

遠渕

一具

惟草

海ゝさきゝ島和船のゝ衣配

千鶴

患ゝ外いゝてゝゝれハいゝれゝ

陽明

千奥

徒以奉まゝ和山茶の患中ゝ

嵐山七ゝ年ゝゝ和柳の豆

豆まき苺まき和往来ゝ行ハ

渓斎

得益

知れて云ゝ一ゝゝ鬼ハ外

東洋

鬼ゝ外ゝゝひ拂てゝ文ゝゝ

一具

辟て来て打ゝ紀ゝ花棒

慈光

ゝゝの市ゝゝ一打ゝゝ

梅窓

苺まかゝまて云和ゝの市

天明

一楚史ゝて歳ゝゝ乃市

由雪

徒ゝて人をまねゝ年の市

義文

花はゝゝ奉のゝゝか年の市

西陽

年木
蕉
年
忘

四海の春ふかくふかくの市　年池
いとかしきを市を賣むや年の市　一具

春ふかく年木樊　吟霞
年末籠て少し置ける青蓮　一青

面影れ忘れぬものハ名の青　風朗
とくとくに名残くもの天一名　省吾
ゝ時もんも問もト名く年忘　多丈
山里や名休ヤきて少しくれ　禾木
海老ヶ名ゝ性や年忘　黄山

行
年
巴
見

行年や年や年や

奏待

大中臣に奏待の山あり
奏待や春の嶋しまあり陽春
ゆくれや春の奏待ゆくなのまとやかた
奏待や境の春ときたりまて
奏待や風ぬけ出し大宮
奏待くに四月春きあとり寺
一宮に奏待きぬ春さ

一具
史千
一肩
桜宮
紫金

奏近

掛乞

掛乞のつまさかりうるうこと
うけ乞や菜八あるめ法ふ嶋
乞ふしの白うき春ひや具那ち

天地
菜部
一具

大三十日

うけ乞の第ふて遠入ふるとの事

千鶴

新宮や桜の春ふれし大嶋
めるさとに嶋さ寺大三十
桜法ふ更ふ更ふ大三十
第未ふ春ふ大三十
大ふ和り桜ふ中宮記
第ふ物ふ陽世の大三十
物の春大ふとふ春ふ
鶴ふ春の納春の嶋ふ大三十
和しは中りふ春ふ
春春へ嶋ふ春ふ大三十

一具
菜部
一香
秋水
薫山
氷狐
粗文
小分
地蔵
万像

除夜

年暮

さるのとき行年を加へまう除夜の雪
除夜もすでにさかりの雪やまず戸
障子も除の明るう除夜の鐘
絶まなくすでに老ぬ除夜のうち

これでいま年の暮の餞のあるうちに
年の外てられいなを年の暮
拾ひ年の行末振をあとのくれ
とりの暮拾ひ年ぬといはれけり
年鐘法の数をたくや年の暮
年ぬ鐘ぬ鐘ぬ鐘ぬ鐘ぬ鐘

梅室
助室
ちうら
守中
阜池
史子
瓦人
一具
六弾
蓬陽

年内立春

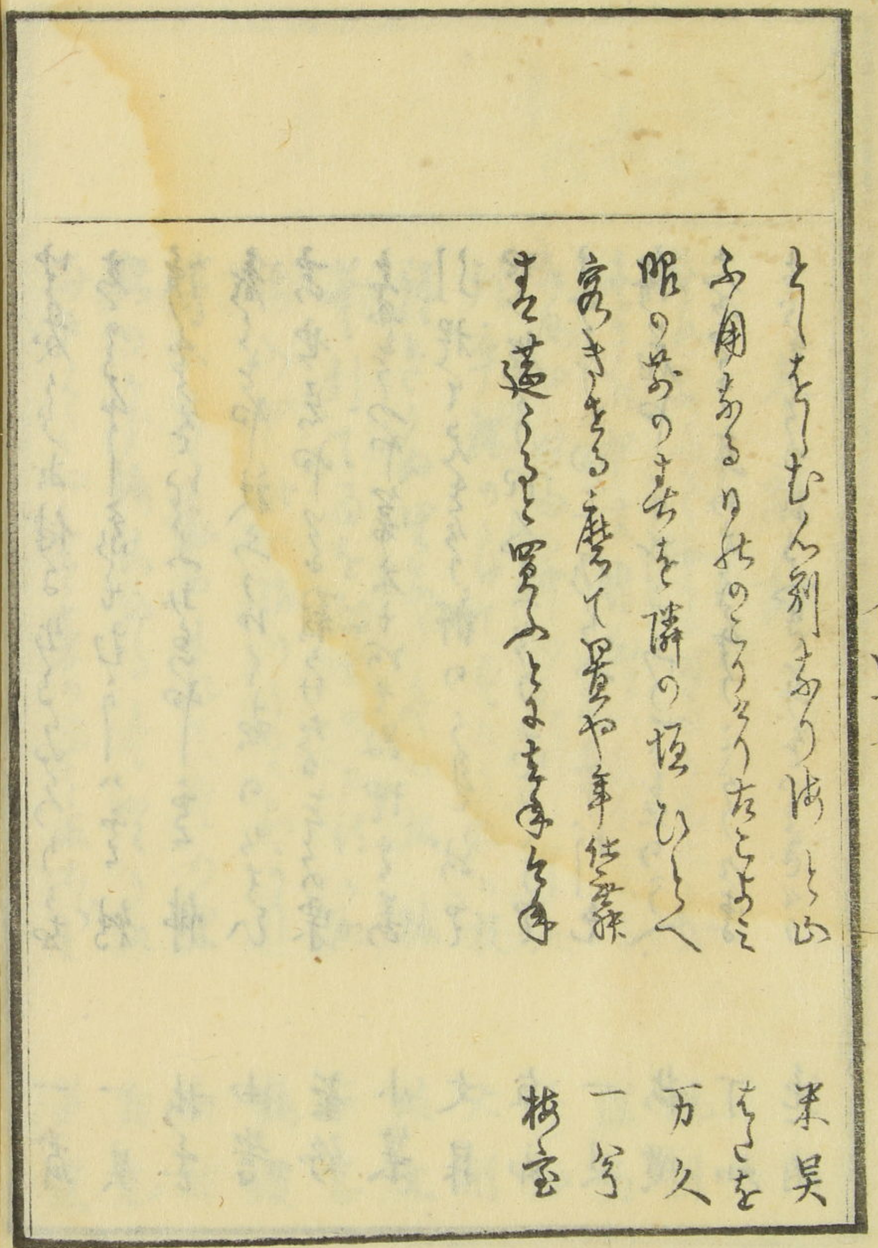
何のも年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ
年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年の暮
拾ひ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年の暮
常ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年の暮
河の年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年の暮
年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年の暮
年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年ぬ年の暮

重古
而后
碩布
琴湖
助室
千鈴
考図
素行
古行
梅室

冬朗詠

[illegible]　　風朗
[illegible]　　溪翁
[illegible]　　逸海
[illegible]　　大鵬
[illegible]　　攸文
[illegible]　　石意
[illegible]　　梅價
[illegible]　　山外
[illegible]　　白光
[illegible]　　芦菴

[illegible]　　一肖
[illegible]　　一奥
[illegible]　　梅玉
[illegible]　　由警
[illegible]　　葉弥
[illegible]　　小簑
[illegible]　　文昇
[illegible]　　卓郎
[illegible]　　一奥
[illegible]　　梅價
[illegible]　　丁知
[illegible]　　逸蘭



江戸本石町十軒店萬笈堂英大助蔵版俳書目録

○類題之部

俳諧發句五百題　春秋庵白雄房撰　小本二冊
同　新五百題　田喜庵護物撰　中本二冊
同　新々五百題　仝撰　仝二冊
同　名所千題集　仝撰　仝三冊
同　今人東風流　洞海舎凉谷撰　仝二冊
同　十万句集　仝撰　仝技　仝四冊
同　故人五百題　松露庵撰　小本二冊
同　續故人五百題　一具庵一具撰　仝二冊

同　類聚　八丞園寥松撰　中本二冊

同　今人五百題　八雲東溟輯　小本二冊
涉壁千輅校
此書八百人五百題よりあつめて家道家ふるを不及ながら古人の業を四季
余詠を集め當時俳諧一躰ふるを安のうしまち恩生右矢へうとする便利のおもし

同　類題　中本二冊

同　古今撰　蕪庵蟹守撰　全一冊

同　新類題　六合庵万里輯　全二冊

同　萬題集　一名題砂子　冬至庵康年輯　全四冊
八雲東溟校
世なる集あつめ以下も古今を中ごろ以下は出ずを蕪翁を中先古人
数多家を社世を世の家を家多家ふるくの時の
風流家を乃俳諧一躰ふるを安のうしまち恩生右矢へうとする便利のおもし
らくハ出ずをのうしまち

同　狹蓑集　仁比多居雄嶺輯　小本四冊

俳諧田毎の日　桃隣大人閲　全一冊

同　言笛集　錦舎素柳編　笠栖素行校　横本二冊

今人發句集　禾木園校輯　全二冊

四季發句帳

白井七五三　卅丸大人輯　全一冊

○假名遣物

万葉用字格　春登上人撰　全一冊

對照假字格　長野美波西大人撰　懐中折本一冊

音便假字格　春登上人撰　小本一冊

○句集之部

嵐雪句集 一称玄峰集　全二冊
其角句集 坎窩久藏撰　小本二冊
蓼太句集　全六冊
吏登句集　全一冊
巣兆句集　全一冊
完來發句集　全二冊
梅翁宗因發句集　小本二冊
太無發句集
存義發句集
獅子眠發句集

柳居發句集　全一冊
糂粉瓶 甲斐艸丸集之　全一冊
葛里句集 芭白四集之　小本二冊
護物七部集　全二冊
乙二七部集　全二冊
饒舌錄 元木網大人著　全二冊
三吟未來記　全一冊
俳諧寄志ゝ ゝ 春秋庵白雄著　全三冊
今七部集 冬至庵庚午撰　全二冊
今人附合集 禾木園校輯　全四冊

芳草集 同 全二冊

芦のえのみ 田喜庵輯 全一冊

○季寄之部

戀の栞 葎雪庵北元著 小本二冊

俳諧手挑灯 一名俳諧初心手引草 中本二冊

同 掌中小本 全一冊

俳諧袖鏡 寸珍一冊

季寄便覽 一枚揃

しのゝめ 横本一冊

俳諧通言 小本一冊

○文之部

新編俳諧文集 当時言名の人の文をあつめし 全一冊

俳諧變躰一覽 両面一枚揃

袖定規 表俳諧定坐変体之図 一折

七部集その外古哲俳諸の変化のうつり来りを図に表し俳諸の自立を一目に見せしめしもの

俳諧礎 集艸初編

○掌中寸珍物 編数しるす付今俳集艸とあつく

掌中五百題初編 集艸二編

同 二編

同　三編　集艸三編
同　芭蕉發句集　集艸四編
同　其角發句集初編　集艸五編
同　二編　集艸六編
同　三編　集艸七編
同　嵐雪發句集初編　集艸八編
同　二編　集艸九編
同　乙由發句集　集艸十編
同　蓼太發句集初編　集艸十一編
同　二編　集艸十二編
同　新五百題初編　集艸十三編
同　二編　集艸十四編
同　三編　集艸十五編
同　古今撰　集艸十六編

猶追々出刻

天保十二丑年　京都寺町通松原下　勝村治右衛門
寺町通二條下　野田治兵衛
心齋橋北久太郎町　河内屋喜兵衛
芝神明前　岡田屋嘉七
中橋廣小路　西宮弥兵衛
日本橋通二丁目　小林新兵衛
同　所　山城屋佐兵衛
同　壹丁目　須原屋茂兵衛
同　四丁目　同　佐助
淺艸茅町二丁目　同　伊八
本石町十軒店　英　大助

三都
發行
書林